

---

# 終わる世界に最後の約束を

youmu7

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

終わる世界に最後の約束を

### 【Nコード】

N8974Z

### 【作者名】

youmu7

### 【あらすじ】

主人公 藤堂 亜紀（男）通称：俺だが、

ある日、同じクラス？の神崎から刀をもらう

厳密には返してもらった・・・かな？

その刀は俺の家の宝刀で……。え？俺こんな生活望んでないんだが？

その日から仲間が増えるわよくわからん理由で切られそうになるわ！俺の日常はもう戻ってこないんだ・・・そう、永遠に

## 序章〜終わりの時の猶予時間〜（前書き）

この小説は、初めて書いたので矛盾があると思いますw  
あと、けっこう定番ネタですよ〜。

暇なときなどにどうぞ！！ ちなみに結構長かったりするのかな？  
でも大丈夫！毎回10話くらいで大体の話がわかる様にまとめるか  
ら！！

あれ？・・・見る必要なくねw そんなことは気にせず！  
ゆっくり楽しんでいってね！！

## 序章〈終わりの時の猶予時間〉

「俺の家には宝刀がある」って言えば何人が信じるだろう。だってそれは只の模造刀かもしれないのだ。

普通の人にはそんなの見分けがつかないだろうが、最初に言った通り

「俺の家には宝刀がある」

だが、この宝刀を巡って大きな戦争になるとは普通だれも考えない。

只の不幸だと、時期が重なっただけだと思いたかった。だが確実に俺だけを狙ってくる集団。

あげくに、味方さえ裏切るものが出る

どうしてこんなことになったのか・・・。

それを今から説明していこう

序章〱終わりの時の猶予時間〱（後書き）

序章・・・なんかな？プロローグの方がいいかな？どっちでもいいかw

うん、これだけだとわけわからんね！！

でも見ていけばきつと・・・！！

あらずじ、序章は多少の変更あるかもです！！

第1話〜終わりののはじまり?〜 (前書き)

サブタイ定番過ぎー!! WW

## 第1話〜終わりののはじまり〜

自宅 自室

朝 - それだけで辛い、だって朝だぜ？眠いじゃん

「あきーそろそろ起きなさい」

とまあこんな感じにいつも通りなわけだが

しかし・・・。母さんも疲れないのかな？毎日同じ事して

小さいころはうるさいだけだったけど今では声を聞いているだけで落ち着く

そんなこんなで俺は布団からゆっくりと起き時計に目をやる

「7:00か・・・。しかし今日の気温3 てww馬鹿にしてるだろ」  
そう特に朝が辛いのはこの為である。みんなもわかるだろ？

こんな寒い中なんで自転車で10分かかる学校へ行かなきゃならないんだ。

しかしまあ近いんだよなあ〜それだけでも良しとするか！

7:10 着替え終了！いやあ着替えるまでってなかなか時間かかるよね？

寒い日に服を脱ぐとか・・・。ちくしょー！！着替えたて寒いよー！！

こんなやりとりを続けて5分無駄にした。

7:15 食卓にて ニュースによれば今日は快晴らしい  
つてみればわかるよwwで今日は一日晴れ

「晴れでよかつたねえ」母さんが笑顔で言う

「まあ寒いからな、晴れでよかつたよ」父さんが言う

「でもさー。電車の中暑くね？」疑問を聞いてみたり

「それは人それぞれだがこれだけ寒いと逆に助かる」

父さんが質問に答える

とまあこんな日常が好きなんだよ

7:30 歯磨き完了！ゆっくりする時間もあつたから今日は早め

に出るかな

いつもなら10分後に家を出るんだが今日くらいいいだろう  
なんだって今日は快晴だからだ!!

最近曇りやら雨やらでじめじめしてたんだよねえ冬なのに  
雪が降ったのは2日だけ曇りやら雨やらは5日

つまり一週間ぶりの晴れなのだ!!しかも快晴!!

これをテンション上がらずしてどうする!

7:31 登校中

じゃあさくつと学校の説明でもしますか

学校の登校時間は8時40分まで 遅刻したことはない

あとは普通だ。

7:40 学校到着 教室1-1 3階端

さてと着いたわけだが・・早すぎた。

やっぱり早いと教室だれもいねえ

と思ったら奥の席に誰がいる?

うーんだれだあれ?転校生かな?

「あゝ、転校生さんですか?」質問してみた

答えは

第1話〜終わりののはじまり?〜 (後書き)

結構短めでいきます!

こつこつ終わり方って

続き気になっちゃいますよね!..!

## 第2話〜災いの原点〜（前書き）

新キャラ+すべての始まりです！

ここからようやく戦いが動き出すんですね！！

誰がしゃべっているかはわかると思うので

省略させていただきます。

後々、つきますんでww

## 第2話〜災いの原点〜

「違います」へ???じゃあなんで学校にいんの？

あーちなみに黒髪ロング身長160くらいかな？あとはまあとりあえずだ・・落ち着こう。

多分あれだ！幽霊だ！！あーそう思うと気が楽になってきたぞとか考えつつも席に着く俺。それに転校生が近づいてきて

「私、あなたと元から同じクラスなんだけど・・。」

えへへ〜しまったww友達とかとはしゃぎまくってて

全然クラスの仲間顔おぼえてないやあ〜

「えっと・・すいませんでした！最近学校来ても寝てたり遊んでたりするから

全然クラスの人（男子以外）おぼえていませんでした！！」

まあ全力で謝るのは当然だよな？てか俺ひどすぎだろ！でも窓際の人の顔とか名前とかかって覚えにくいよねえ〜

「私の名前は 神崎 真帆 です」結構怒ってらっしゃる

「俺の名前は藤堂 亜紀です、しってましたよねww」

「下の名前はしりませんでした」

「それが普通ですよww」

とこんなやりとりをしてもだれも来ない

7：45 教室

異変に気づいたのはそこら辺からだろうか、

まず外が暗い、いやちがうな外は青色・・。

へ？青色ってなんだよ!？あれか色つき下敷きでも貼られてるのか俺は？

でさっきの神埼はどこに？外か!？

?:??? グラウンド

その中心に彼女はいた。

しかし本当に神崎か？青いからかもしれないが・・

いや見間違いじゃねえなあいつ髪の毛白くなってやがる

神崎はゆっくりこちらを振り返る

落ち着け俺、これは夢かもしれない下手に動けば寝ている俺が変なことになる・・・。

「どうしたんですか？ まさか夢、とか思ってます？ふふふ」

夢じゃないのか！おっしや！！動いても大丈夫だ！！

あれ今声後ろから・・・でも神崎は動いていなかった・・・はずなのに・・・なんで・・・おれ・・・横に飛んでんだ？

「ぐはあ」グキツつと鈍い音をたてて地面に叩き付けられた

どこも折れてはいなかったがしうて言うなら心が折れたなww

「どうしたんですか？弱いですね あははは」

畜生笑いたいのはこつちだよ・・・。

どうする？近づく？逃げる？いや逃げるのは駄目だ

いいぜ、倒してやる！！

「やっとその気になりましたか」

神崎が刀を投げてくる。それは俺の前で落ち

「っ！？」俺はこの刀に見覚えがある

よく小さい頃に見たことのあるそれは・・・。

「それあなたの家の刀でしょ？」

そうだよく祖父からいわれていた

『その刀を抜いていいのは覚悟ができた人のみ！』

その時俺は・・・その刀を・・・抜いていた！！

「あはははやつぱあなたのだったんですね！！」

「だったらどうする？お前を切り刻めばいいのか？」

「怖いですよ、ただ私はその刀の持ち主を探していただけなのですから」

「ならさっきのはなんだ？」そう攻撃のことだ

「あれはあなたをその気にさせるための唯一の手段ですわ」

「唯一？」

「そう時間がないのですよ、こちらにはほらもうすぐ結界も解ける。」

だからあなたに一つだけ言っておきます」

- その刀はあなた。その刀を手放すことは許されない -

## 第2話「災いの原点」(後書き)

新キャラ：神崎！ 初めは156cmだったんですがねww  
グラウンド時、神崎の目は赤色です。通常は黒  
色つきの下敷き(青)を言えば同じ体験できるかも？ww  
ちなみに主人公に見た目の変更はなしwwかわいそうに・・。

第3話 敵か味方か (前書き)

第3話です！

また新しい人ですね

### 第3話 敵か味方か

気づいたら机で寝ていた・・・。

と・・・とりあえず状況確認だな！えつと・・・12時？

あ・・・あれ！？学校来たの8時だったよな・・・。

あー。あの世界時間たつの早いわけか、なるほどお・・・。

だとしてだ、どうするよ？このまま寝てるか、授業を聞いてるか。

だがそんなことしてる暇はなさそうだwwチャイムなりやがったよ

お昼休み

まあアレだ昼食シーンなんていらぬよww

みんな食堂いくから、誰も残ってねーだろうな。

あれ？一人残ってる。同じ弁当組かな？

しかもすぐく見られてるんだが

あれか？刀の件か？うそーん、ならくればいいのに・・・。

あーはいはいいきますよーいくから睨まないでーすぐく怖いから！！

「で、なんの用なんだ？」まずこれ聞かないと始まんないからなww

「別に。」！？あれれ？間違えたわww気のせいかさうですか

「神崎」え？神崎？？

「神崎がどうかしたのか？」しかしなぜいきなり？？

「やはり知っていましたか」あはは・・・。トラップかよ！！

「知ってるが？」

「では早速・・・宝刀いただきますよ？」あーフラグの方ね理解

「あげませーんよ」なんか変なテンションでいっつちったww

「そうでなくては困ります」ですよねー

「ちよいまっ」ブオンの音とともに刀が振られる

教室の中には人が・・・、てか昼休みだからだれもいないんだつた

ww

しかも何？刀燃えてますよ？？つてよく見たら・・・剣じゃん！？  
だがその炎は机を焦がさなかった。いわば飾りなんだろう

「死にます?」

「いやですww」

「では、しんでくださいっ!」

おかしいなww断つたら殺される、理不尽ですよ!!

「よけないでくださいよ、机切っちゃいますよ?」

「え?ちよいwwやめてw机はまずい」

「ならなんですか?教室でも切ります?」

「いやいやww切るな!まてやめろ!」

その時は教室切るとおもってた。。

けどちがった

そいつは。。

チヨークを折った。

「じみいいいいい!!!!」

「え?なにがですか?」(´) エツ・・・? こんな顔

そんな顔でいわれてもwwかわいいじゃないか!

まあチャイムが鳴ったからいつものように授業の用意してたんだが

。。

来た あの世界だ

第3話 敵か味方か (後書き)

ちなみにこの間の青の世界は結界です  
刀を持つてる場合は青くならないです  
ちなみに神崎も爆睡してましたww

## 第 話 補足 (前書き)

なんでこんなことに? など

自分でもわからないところの補足説明です

## 第 話 補足

- ・ 神崎の髪と目の色が変わったことについて

自分の宝刀でないものを持つとそれぞれの効果がでます

藤堂の宝刀は 髪を白、目を赤にする代わりに

攻撃の威力の増加、瞬間移動の使用ができる。

ただし自分に来る負荷はなかなかの物である。場合により吐血する

- ・ 爆睡について

神崎が夢ではないといったにも関わらず、なぜ寝てたのか。

これはいまいちよくわかってないのである。

- ・ 結界について

これは現実とは別の世界ということ

結界にはいくつかのパターンがある

1：中にいるものは現実では睡眠中である

(ただし時間経過の結界の場合のみ)

現在の登場はこれだけ

- ・ 神崎の結界について

これは時間経過の結界

時間が経つのが早いため注意が必要

- ・ 睡眠中の授業について

これはどうしようもない

ただ先生は起こそうとするであろうが

結界時は起きない。

ただし現実の体に問題が起きた場合は起きる。

- ・ 宝刀について

ある家族に元から存在する刀を宝刀と定めた

宝剣も登場したが、これも定められたもの

ちなみに模造刀も極稀に含まれる

- ・ 宝刀&宝剣の効果

藤堂の宝刀は現段階で

瞬間移動である

神崎と3話での新キャラは現在不明である

・宝剣の炎について

これは新キャラが持っていた物だが

現実ではただの飾りである。

結界内のみ効果あり

## 第 話 補足 (後書き)

とりあえずここまで

何かまだわからないことがあれば  
感想の方でお願いします

## 第4話〜白熊登場!?!〜(前書き)

まさかチヨークをピンポイントで折れるとは・・・。  
はっ！実はピンポイント攻撃ができるのか？

## 第4話〜白熊登場!〜

「神崎さんのでは時間が進むようですが…。私のは進みませんよ?」

「へえ…。ありがたいな」

「さっきの質問なんですけど」

「なんだ?」

「地味とはなんですか!?私ですか!そんなんですか!どうなんですか!」

「うん、落ち着こうねww」

「…。すいません。で、どうなんですか?」

「いやチヨーク折るのがですよ!、それとかわいいですよ!」

「最後のいらないですね」

「えー…。せつかく勇気でしていつてあげたのに」

ブウン またあの剣か

「ここじゃあ邪魔は入りませんよね?」

「いや、入るねww」

「え?どうやって、なんのために?」

「3, 2, 1, こい!」

「やつほー神崎ちゃんです!」ここから名前つきでいきます!

?「どうしたあなたが!」

神崎「しりませんよ 呼ばれただけですから」

俺「呼んだだけですから」

神崎「ねえ相坂さん?」

相坂「なんですか?」

神崎「よく人に宝剣みせますねえww」あつ……。っていう顔して  
た てか見せたら駄目なのね

相坂「じゃあ消えてもらわなくては!」

俺「理不尽な世界だねえ」

相坂「なにもわかってないやつがいうな!!」

俺「すいません」

「お?さらになんかくんぞ?」

神崎&相坂『え??』

ドゴーン! そんな音とともに。。

なんだこれ?・・モンスターか?

神崎「え?え?なんでこんなんでくるわけ??わけわかんない!」

相坂「てかなんで来るってわかつたんですか!?!」

俺「知らんがな」

?「クマアアアア!!!」

俺「なにもいえねえよ!てかなにいつてんだよ!叫ぶなよ!うるさいよ!」

神崎「てか白熊?」

相坂「さらにぬいぐるみとはやってくれます!」

俺「どうすんのこいつ!かわいすぎだろwww」

神崎「とにかく倒しますよ!!!」

?「やめてえええええ」

俺&神崎&相坂『!?!』

?「やめてよう。。別にまだなにもしてないよ?どうして攻撃するの?」

俺&神崎&相坂『。。。。』 イヤ、サケンダジャーカ。。。

神崎「離脱します!アデュー!」

俺「あ!こら逃げんな!!!。。逃げられたww」

相坂「私も離脱しますねえ でわ」

俺「ちよっ!?!?。。で?クマさん。。名前は?」てか俺一人でも世界は消えないのね。

とつかどうやって抜けるんだ?この世界から

?「名前。。?ないのでつけてください」

か。。かわいすぎて死ぬ。。。新手的攻撃か?

あ「ええ。。とアリスでいいか?」

ア「はい！」

あ「でなにしにきた」

ア「お供です！」

マジ、ナンデサケンダノ？

第4話〜白熊登場!?!〜(後書き)

アリスの登場ですね!

なぜ人に宝剣・宝刀をみせては駄目なんでしょうね?

## 第5話〜日常世界の一端〜（前書き）

わかりにくいですが結界に出た後から少し経っています

## 第5話〜日常世界の一端〜

というわけで現実です

席替えしました！なんでよこが神埼なんだW

神埼「ねえねえ」

俺「なんだよ？」

神埼「結局あの後どうしたの？」

俺「なんかお供するってさ、ついてきたよ・・・。」

先生「そこ！！うるさいぞ！」

俺&神埼『すいません』

授業終了

怒られてからは普通にしてた。

神埼「しっかし・・・。どうすんのよ？」

俺「アリスの事はいいだる別に」

神埼「ちがうよ」

アリス「！！！」

俺「ん？うわつつ」ブンツ

相坂「外しましたか・・・チツ」

神埼「お！やるの？じゃああの世界いつとく？」

相坂「いえ、もう済みましたので」「どっかいつちゃった・・・。」

俺「てか、アリスどこいった？」

神埼「え？いないの??W」

俺「ああ、ちよい探しに行ってくる」

神埼「どうぞどうぞ」

廊下

俺「おゝい！！相坂！！！」

相坂「うるさいですよ、なんですか？」

俺「アリス知らないか？」

相坂「はい？誰ですか？」

俺「ああ、熊だよ白熊」

相坂「あの子ですか・・・知りませんか？」

ん？・・・嘘か？いや、どっちだ？

攻撃されたときに相坂が盗んだか、攻撃後に神崎が盗んだか。

まあアリスが自分でどこかにいった可能性も・・・ジジッ 結界発動音

俺「あのさ・・・やつはお前なのか？」

？「・・・」違う・・・また新しいやつか！！

ブンッ ぎりでかわしたが・・・

？「ちよつとはやるようで・・・では、フルいきますよ！」

俺「は？」バンッ！！ 今の・・・なんだ？

？「あははは、ビビッテル！」てか周りが暗い・・・いつもの場所じ

やないだと!？

？「じゃあもつといくから！避けてね？」シュバババ

あゝ理解・・・銃器か、納得。だが見えない

てか、当たってない？いや、当たてないのか・・・。

？「さすがに不利なままは可哀想だね、」そこは・・・どこだどこ？

俺「おい・・・ここ、どこだよ？」

## 第5話〜日常世界の一端〜（後書き）

まさかの新結界登場ですね

この結界の特徴はなんでしょう？

と、その前に銃器の登場！

宝刀持ちか宝剣持ちか・・。

どっちでもないのか！？

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（前書き）

すいません！時間あげすぎましたww  
今日からちゃんとしみます！

## 第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜

アリス「知らないんだあwここはアリスの世界なんだよ？」

俺「なるほどな・・・畏というわけか。」

アリス「畏？違う違うw」こいつ・・・

俺「いいぜ・・・お前も宝刀狙いだろ？」

アリス「気づいてましたか」今なんだけどねww

俺「ならさっさと終わらす・・・つて、誰だよお前？」

アリス「???アリスですよ？」

俺「アリスは白熊だ・・・だがお前人間だろ？」しかもゴスロリ

アリス「アリスは化けていただけなのです」

もうひとつわかったことがある・・・。銃器だけじゃない、鈍器もありやがる。

アリス「では、ショータイムですよ!!」

俺「っ!？」パンツ!

「おいおいSGは反則じゃないか？」SG=ショットガン

アリス「ハンデですよ、早く刀抜いてくださいよ」

俺「・・・抜いてるが？」

アリス「え？抜けてないですよ??」

俺「はあ、武器の特性・・・奪うなら覚えて来い」ちなみに特徴

については神崎が教えてくれた

ドンツ チョイ反則だが・・・しかたないよね？

「後ろからは・・・反則・・・です・・・。」悪い

一応説明しておくか、宝刀にはそれぞれ特徴がある、俺のは加速。

まだあるらしいけどね

多分感知能力もあると思う。アリスのは、偶然ではなさそうだしな

### 現実

神崎「でー、なにしてたの？」

俺「はい？」

神崎「さつきまでいなかったじゃん！」

俺「ああ、アリス探してた」アリス結界も時間経過なし

神崎「見つかったの？」

俺「おう、カバンの中に居た」

神崎「でもカバン見てたよね？」

俺「ああ、奥の方に居たみたいでさ……。」

相坂「まったく失礼な人です」

アリス「!!!」

俺「起きたかw」

神崎「おはよー」

俺「もしかして、相坂嫌われてる？w w」

相坂「え？」

ア「そんなことはないですよ？」

俺「よかつたねえ〜。」

相坂「なぜ私が嫌われてると？」

俺「だって、タイミングが……。」「……あばば、剣危ないです。

周りの人見えてないのかな？

「ごめんなさい。本当になんでもありません。はい」

ああ、剣をなおしてくれた

俺「で、さつきのはな……。」「ジジッ

第6話〜白熊（アリス）戦とその後〜（後書き）

アリス戦短いww

全体的に戦闘パート短いですね・・・。

宝刀などの詳しい事はまた次の補足でやります！

第7話〜一日終了〜（前書き）

やっと一日が終わりますね  
あ、次補足です

## 第7話〜一日終了〜

ふざけてる・・・てか今の、いつもよりひどいぞ？

アリス「ちよっと！ばらさないでください！」

俺「すまん・・・でもやり方があんだろ」

アリス「緊急事態でしたから！！ちなみに正体ばらしたら怒ります！！」

俺「怒るだけかよ・・・」かわいいな、

「おっと。で、お供つてのは嘘か？」

アリス「え？嘘じゃないですよ？」

俺「なるほどさっきの戦いは力試しか。その擬人化も結界内だけか？」

アリス「違います。でも無闇に使わないほうがいいと思ひまして」

「あとこれがアリスの武器です！」

えっと・・・銃器、鈍器、刀か

俺「ん？この刀だけなんか違うな」

アリス「それが私の本当の武器です」

俺「なるほどね」刀はオレンジ色に発光している

「じゃあもう、もどるぞ？」

アリス「はい！」

俺「しただけど」で、さっきの・・・の続きから

神崎「さつき？」

俺「ああ、アリス。なんでカバンの中にいたんだ？」

アリス「え？だって次体育ですよね？」

俺「え・・・？あ、違う違うww今日は保険だww」

アリス「え！？すみません！！」

神崎「大丈夫だよ、ちよっとあせったけどww」

放課後

俺「さて、アリス。帰ろうか」

神崎「え！？」

俺「なんだよ・・・。」

神崎「家につれて帰るの？」

俺「普通だろ？アリスもそれでいいよな？」

アリス「はい！」

俺「ということ帰るわ。じゃあな」

神崎「大丈夫かなあ・・・。」

相坂「何をそこまで心配しているんですか？」

神崎「ん？なんか裏がありそうだなあ〜って」

相坂「あいつの事は知りませんよ。さあ私たちも帰りましょう」

神崎「そうだね。悩んでも仕方ないもんね」

自宅

俺「ただいま〜・・・って誰もいないか。」靴ないもんな

自室

俺「よし、もういいぞアリス」

アリス「はい、よいしょ」

俺「しっかし、お疲れ様。2時間はきつかっただろ」

アリス「そうですね、でも寝てたので大丈夫です！」

俺「寝てたのかよw」 暇だもんな

「そーいや飯とかどうすんだ？」

アリス「擬人化時はお腹すきますがこの状態なら大丈夫です」

俺「そうか・・・。」

その数分後親が帰ってきた

自室 就寝前

いろんな事とばしたけどまあいいだろう

俺「アリス〜どこで寝る？」

アリス「普通でいいです」

俺の家はベッドではなく布団派です

俺「普通か・・・。じゃあ横？」

アリス「はい、それで大丈夫です」

そつとつ眠たいらしいな

第7話〜一日終了〜（後書き）

長い一日ですねw

## 第 話 補足 (前書き)

今回は宝刀の詳しい説明などですねw

## 第 話 補足 2

### 結界の新種類

1、時間を経過しない結界について

時間を経過しない代わりに別の宝刀所持者に介入されやすいさらには結界内の所持者の力を下げる。

2、場所変更可能結界について

これは時間経過無し・力を下げることもない介入されない。と普通の結界なのだが発動するまでが長く、発動したあとが短い、即効性に欠ける

宝刀・宝剣について、パート2

現実時宝刀・宝剣について

現実での宝刀剣は所持者以外見え  
宝刀剣自体が粒子になっているため  
わざわざ持ち歩く必要がない

現実時の威力・能力について

- ・威力は半減するが斬ることは出来る
- ・能力に変化はない（一部例外有り）

宝刀剣の発光について

- ・パートナーとなる人物がそばに居る場合

共鳴して発光する。色は持ち主の好きな色にできる

アリスの能力について

- ・擬人化能力

これは宝刀の力だと思われるが実際不明である

ぬいぐるみ状態だと斬られても無傷

擬人化時の体力は普通であるが

ぬいぐるみだと半分である。

神崎と相坂の関係について

現在では友達と思われるがパートナーとも考えられる  
パートナー制について

宝刀剣の所持者間で能力を共有できる

パートナー選びに制限はないが

能力や仲が良い人と組むのがいいだろう

第 話 補足 2 (後書き)

次の補足は15部です！

第8話〜2日目開始〜(前書き)

タイトルが思いつかねえWW

今回からサイドストーリーリー来ます!!

## 第8話〜2日目開始〜

教室 1-1

さて・・・また早く来てしまったな。

今回は・・・誰も居ないな。

ちなみにアリスだが・・・。

俺「なんで擬人化してんだよ・・・。」

そう、これが早く登校した理由なのだ

アリス「えへへ〜実は転入するんですよ!」

俺「え・・・?」

アリス「しかもこのクラスですよ!」

俺「え、ああ・・・うん?」

アリス「昨日決まっていたんですけど、さすがに友達無しはきついで  
すから」

俺「おいアリスちょっと待て」

アリス「はい?」

俺「お前・・・どこから学校に通うつもりだ?」

アリス「もちろん亜紀さんの家から!」

俺「おいおい・・・。」

アリス「両親の許可も出ていますよ?」

俺「は・・・?いつの間に」

アリス「朝ですよ?」

そっぴや起きたときアリスいなかったな・・・。

てか親〜!何納得してんだよ

俺「名前は何になるんだよ・・・。」

アリス「藤堂 愛華 だそうです」

俺「愛華って・・・呼び方アリスのままでもいいか?」

アリス「もちろんです!!」

俺「てか、職員室いかないといけないじゃねーか!」

アリス「そうですね」

職員室

俺「失礼します！」

アリス「あれ？まだ誰も来てませんね」

おかしい・・・それ以前になぜ・・・。

誰もこないんだ？ 現在8：10分

俺「まさか・・・結界の中か！？」

アリス「え？でも誰が」

俺「わからん・・・だとすると、アリスの体がどこで寝てるかが気になる」

アリス「もしかするとぬいぐるみになって鞆の中にもいるかも」

俺「・・・教室帰るか」

アリス「そうですね、でも私はどうしましょう？」

俺「一旦ぬいぐるみに戻れ」

アリス「はい！」

第8話〜2日目開始〜（後書き）

これでアリスとバレずに擬人化できますね！  
忘れてないと思いますか？

亜紀「俺 ですからね？」

第9話〜集団睡眠〜（前書き）

男子A！！まさかの新キャラですよww  
でも男子Aはストーリーに関係ない・・・かな？

## 第9話〜集団睡眠〜

教室 1-1

俺「あれ？みんな来てる」

神崎「お！おっは〜」

俺「おう、あのさ・・・職員誰もきてないぞ？」

神崎「なんと！ミラクルだね」

俺「そんな面白い話じゃねーよ」

男子A「おお藤堂・・・なんだよお前から昨日から急に仲良くなりやがって」

俺「わるいわるいw で？どうした」

男子A「ああ、なんか今日転校生くるってよ」

俺「ああ・・・俺の妹だ」

男子A「まじかよ！、ん？でもなんでうちのクラスに？」

俺「さあな」

神崎「妹いたの？」

俺「ああ、義妹がな」

神崎「なんだ義理かあ〜」

俺「ん？そっぴやなんでもみんな寝てるんだよ」

神崎「そっぴやそっぴだね」

俺「男子Aまで寝てるし・・・さっきまで話してたくせに」

神崎「やばい、私も眠い・・・」

俺「ああ・・・同じく」

ここで多分寝たと思う・・・。

ちなみにアリスは鞆にはいつている

俺「ん・・・あ！やべっ寝てた」

神崎「zzzzz」

まだねてんのか・・・。

いや、みんな寝てる・・・だと!?

俺「アリス!おい!」

アリス「・・・ひゃい」

俺「起きろ!」

アリス「なんねすか・・・。あれ?みんなねてまふね」

俺「もしかしてまだ教師きてないのか?SHR始まってんぞ?」

神崎「うそっ!SHRはじまってんの!?」

アリス「!!!」

俺「神崎・・・うるさい、アリスビビッてるだろうが」

神崎「あ、ごめん。って誰!?」

アリス「???アリスですけど?」

俺「ああ、こいつはこの前の白熊だ。そして義妹だ」

神崎「この子だったのか・・・ってえ!?」

アリス「擬人化中です!」

俺「とりあえず、アリス職員室いくぞ」

アリス「はい!!」

神崎「私は?」

俺「一緒にくるか?」

神崎「うん」

#### 職員室

俺「失礼しますっ」と

神崎「適当だね」

俺「いいんだよ、ほら」

アリス「こちらも全滅ですね!」

寝すぎだ・・・こいつら

俺「そいや相坂はどうした?」

神崎「あの子は今日休みだよ?」

俺「そうか・・・。一旦帰ろっ」

神崎「どこに?」

俺「教室にだ、それとも家に帰るか?」

神崎「それはめんどいです」

アリス「でも戻ってからどうしましょう?」

俺「とりあえず・・・戻ろう」

## 第9話〈集団睡眠〉（後書き）

アナザーで、職員室に行くかの決断時に

こちらでは職員室に來ています

ですので3組にあつことはなかつたのでしょう

第10話 爆発 (前書き)

あ、ストックが切れそう  
サブタイ本当に思いつかない

## 第10話 爆発

教室 1-1

神崎「他のクラス見に行かなくていいの？」

俺「いい、めんどいからな」

アリス「でも！」

俺「ああ、わかってるさ・・・3組に動けてる奴がいるな」

神崎「!？」

俺「宝刀能力だ・・・ただ接触は避けたいな」

アリス「どうしてですか？」

神崎「あれでしょ？もしかしたら武器持ちかもしれないから」

俺「そうだ。俺・アリス・神崎の時点で薄々わかつてはいたが・・・

」

神崎「まさかまだ宝刀持ちがいるとはね・・・」

アリス「ここって結界の中なんでしょうか？」

俺「違うんじゃないか？」

神崎「うん、違う。だって出られないもん」

俺「普通の結界じゃないだけかも・・・」

アリス「普通の結界じゃない？」

俺「擬似に作られたものだとしたら・・・」

神崎「そんな技術あるわけ・・・あるかも」

ん？そっぴやチャイムがならないな・・・。

アリス「チャイム・・・なりませんね」

神崎「え?・・・あ、二時間目終わったんだね」

俺「早いな・・・時計までくるってるのか？」

アリス「うん・・・。わかりません！」

神崎「考え事していると時間経つのはやいね」

俺「ん？もう始まったのか、3時間目」

アリス「早いですね」

バーン！！！！そんな音が体育館の方から聞こえた

俺「もう・・・なんだよこの世界」

神崎「体育館かな？だとしたら下の食堂やばくない？」

俺「あ・・・ちよつと見てくるわ」

アリス「ここはみんなで行った方がいいです！」

俺「そうか？」

神崎「そうだよ！」

俺「わかった・・・。行こう」

食堂

俺「被害なし・・・っと」

神崎「さつきから気になってたけど、冷静だね」

俺「ん？そうかな？」

アリス「あ！人発見です！」

寝てる職員を発見！

俺「連れ出そう」

神崎「どうして？」

俺「上に2名ほど動いてる奴がいる」

アリス「宝刀能力便利ですね！」

俺「ああ、そして片方は武器を持っている」

神崎「それは・・・いそごう！！！」

第10話「爆発」(後書き)

体育館の戦闘はアナザー第4話にあります

## 第11話 初契約者戦（前書き）

藤堂対謎の契約者ですね！

アナザーより戦闘が短い・・・だと!？

## 第11話 初契約者戦

救出完了

俺「2、3名だけ助かったな」

アリス「みんな来てよかったです！」

俺「ああ、そうだな。で、上に加勢には行かないよな？」

神崎「当然！私の宝刀はまだ見せたくないし」

アリス「私は・・・」

俺「ここで戦闘になりそうだな・・・」

アリス「え？」

シユタ

?「はじめまして、ですかね？」

俺「誰だ？」

?「ふふ、まあ気にしないでくださいよ、」

俺「あ？」

神崎「もしかして・・・怒ってる？」

俺「ああ、こいつのしゃべり方にな」

?「大丈夫ですよ、消えてもらいますから。すぐ気にならなくなるでしょう」

宝剣持ち・・・

?「私の名前はクロウ・アーベルトで御座います」

クロウ「そして私の武器、テンペストです」

黒色の発光

クロウ「さあ！誰が相手なのですか!!？」

俺「俺がやる・・・や。」

アリス「無茶ですよ！昨日初めて使った人が！」

神崎「でも、自分の宝刀の特性覚えてるんでしょ？」

俺「ああ、全部覚えてる、使い方もな」

神崎「なら問題なし！ピンチなら助けに来るからね！」

俺「ああ」

アリス「私は……。」

俺「神崎について行け！まだ他にもいるぞ」

クロウ「ほう……お見事ですな！雑魚ばかりですが……たくさんいますよ？」

俺「クロウ……とかいったな、行くぞ？」

クロウ「ええ」

と、食堂に誰か落ちてきた、でもすぐ上にいった

俺「あれも仲間か？」

クロウ「ww、今回だけですがね」

武器を構える

俺「すまんが時間がもつたいないんでね」

クロウ「同じくですよ」

ガキイン「つばぜり合いになる

クロウ「お見事ですよっ！私の一撃を押さえ込むなんて!!」

俺「黙れよ……？奈落に沈めてやるからよ」

クロウ「ふふふ、あなたでは無理でしょう……っね!!」

スカッ

クロウ「な……に……？」

ザシユ

俺「墜ちな……奈落に」

クロウ「グ……ア……ッ」

神崎「わぁ……マジで倒すとは」

アリス「上も終わったみたいですね！」

俺「教室へ帰るぞ」

神崎「さらに冷酷度が増したねw」

俺「すまん……。」

神崎「いやいやw大丈夫」

俺「この刀……本当に俺のか？」

神崎「え？」

俺「力が制御しきれないぞ？」

神崎「ちよちよちよ！暴走しないでね！？」

俺「大丈夫だ・・・多分な」

アリス「暴走したら構わず撃ちますね！！」

俺「ああ、頼む」

神崎「えええ！？」

教室 1 - 1

俺「弁当は・・・あつた」

神崎「そういえば、アリスちゃんの弁当は？」

アリス「あるよ〜！！」

俺「作ってもらったのか？」

アリス「うん！！」

神崎「今日は早いね〜もう昼休みだよ」

俺「そうだな、まあ飯だ！」

アリス「わ〜い！」

## 第11話 初契約者戦（後書き）

クロウの契約者はすぐそばに居たのでしょうが……。  
上で戦っていた人ではないのでご安心を

あとクロウ男ですから！

## アナザー序章 + 第1話（前書き）

アナザーはタイトルなしです！

ちなみにこちらはもうひとつの勢力？

世界の滅びに関係あるかも？？

主人公は別人です 姓は森 ですが名がまだ  
あと同じ学校です！

## アナザー序章＋第1話

俺はただの学生・・・のはずだった、ありがちな話だがある出来事によりそのあまりにも退屈で楽しかった生活が簡単に崩れ落ちたんだ・・・。  
たかが・・・刀一本の為に。

朝 自室

俺「ねむ・・・はあ、・・・曇りかよ。」

いつもと同じ朝、それは良い。ただ不思議な点があった俺「？ なんだこの刀・・・。」  
見覚えのない刀が自分の部屋にあった。

多分家族の誰かが置いたのだろう  
そんな気持ちで着替えを済ませる

リビング

朝はみんながバタバタしている

ただ眠たい俺だけが時間の輪から外れてるような  
そんな気持ちになったことはあるが、全部杞憂だった  
いつも通り、朝食を済ませ学校に出かける  
他の工程については話す必要もないだろう

学校門前

学校について軽く説明でもしておこうか  
何の変哲もない学校 今とはとくに行事もなく  
だらだらとした雰囲気である。

クラスについては・・・学年別全4クラス  
俺は3組だが・・・クラス分けなど気にしない  
ちなみに自分の教室は三階だ

教室 1 - 3

いつも通りうるさいクラスだ・・・。

逆に静かだと居心地が悪いが、まあいい

友「よ〜・ふぁ」

俺「あくびしてからしゃべれ」

一応の説明 友達Aこと『神崎 繁』読みは かんざき しげる だ

神崎「でもさ、眠くね？今日は特に！」

俺「前も聞いたぞ・・・だが眠いのは同意だ」

神崎「だよなー、昨日寝たの10時だぞ？」

俺「早いな、そんだけ寝れば眠くないはずだが・・・」

神崎「まさか・・・！これは事件か！？」

俺「そんなわけないだろう・・・やばいな、裏に陰謀でもあんのか？  
眠すぎる」

神崎「陰謀はないないww・・・んっ？」

俺「・・・ハッ!？」

神崎「(ニヤニヤ)ねましたな？」

俺「本格的にまずい・・・立ち寝、おそろしいやつめ」

神崎「ではSHRまでねますか」

俺「おう、次の休み時間に会おう」

そのときは本格的にまずかった

何がまずいかという意識が飛びかけていた

自分の席に着いて用意を終えると

意識がなくなつた

教室1-3 SHR

顔を上げると同時にチャイムが鳴る

神崎はというと・・・？

あれ？クラス全員が寝てる・・・？

仕方ないよな、眠いもんな

チャイム後 5分経過

・・・あれ？先生が来ない・・・。

おいおい、まさか先生までもが寝てんのか？

俺「おい、神崎起きろ」

神崎「ハッ！寝過ぎしたか！？」

俺「先生がまだだから大丈夫だ、それより……」

神崎「？・・あれ？みんな寝てる」

俺「そうだ、こいつは陰謀とかの話じゃないぞ……。」

神崎「え？睡眠ガスとかないでしょ？」

俺「ああ、現に俺たちはおきている」

神崎「みんな起こす？」

俺「その前に職員室にいくぞ、それともここでみんなを起こしておくか？」

神崎「そうさせてくれる？職員室ってあんまり……」

俺「わかった、寝るなよ？とりあえず立て」

神崎「おカッさて……いつてら」

俺「ああ、」

アナザー序章 + 第1話（後書き）

実はアナザーの神崎と通常の神崎は、おっと！  
それはのちのち

この話はちょうど通常8話と同じ時間軸です

アナザー第2話(前書き)

職員室到着は藤堂たちの撤退2分後

## アナザー第2話

### 職員室

俺「失礼します、1-3の・・・」

予想的中・・・か？よろべねえよ

案の定、教職員全滅・・・。

ただ不思議なのが、全員が席に座っていること

俺「せんせ？起きてください（ゆさゆさ）」

先生「・・・・・・・・・・」

駄目だ起きやがらねえ

・・・・・・・・・・

なんでだ？全職員起きないとかおかしいだろ

とりあえず帰ろう教室へ

### 教室 1-3

帰ってくる間に隣とかのクラスをみたが

全滅、なんでだ？

俺「神崎？」

神崎「あはは・・・起きないよ」

俺「なんでだ？朝あんなに騒いでたのに」

神崎「まさか外でも!？」

俺「考えたくはないな・・・。」

神崎「みんな寝てるし一旦家の様子を・・・。」

俺「俺の家は現在誰もいないはず・・・神崎お前だけ帰れ、途中で

寝るなよ？」

神崎「え？あ、う、うん！じゃあ撤退します！」

俺「本当にねるなよ？」

神崎「だいじょーぶ！」

とりあえず神崎は帰った、さて、俺はどうするんだ？

帰るべきか・・・いやその選択肢はないだろう

ここに神崎が帰ってきた時俺がいなければ・・・  
おそらくは、まあいい。

そっいえば体育の授業は？

俺「!？」

グラウンドには体育の授業を受けるはずだった生徒が  
寝ていた・・・この距離だからわからないが  
まさか・・・死んでないよな？

グラウンド 1時間目開始5分後

全員生きていた、当然だよな

誰も起きる気配なし。どうすればいい？

神崎の帰還を待つか、

とりあえず今日曇りよかったな。

教室 1 - 3

暇だ、することがなさ過ぎる。

現在1時間目の25分経過

神崎の家は近い、ちなみにあいつがでていったのは

一時間目開始前だ 時間的には・・・な

まだSHRが始まるチャイム以外は聞いていない

神崎「はあ・はあ・ただいま・・・」

俺「わざわざ走らなくてもよかつたんだがな」

神崎「俺だつて走りたくなかつたよ・・・逃げてきんだよ」

俺「誰から？」

神崎「わからない、ただ逃げてなかつたらやばかつたかも」

俺「何を見た？」

神崎「あいつら・・・軍隊のやつなんかな？武装してた」

俺「銃器を装備してたって事か？」

神崎「うん」

俺「ほう・・・あ、そっいえば」

神崎「？」

俺「お前の家、知らない刀なかつたか？」

神崎「あつた・・・けど？」

俺「お前のところにもか・・・ん？」

神崎「どうしたの??」

俺「しゃがめ!!」

神崎「え!?!」

俺「まさか・・・追跡してきたのか？」

神崎「なにが？」

俺「今、武装したやつらが校内に入ってきた」

神崎「え!?!ど、どうしよう!?!」

俺「落ち着け」

神崎「う、うん」

俺「とりあえず・・・賭けだ、あいつらと会話してみる」

神崎「な!?!むっ無茶だよ!」

俺「なんかされたのか？」

神崎「いや、されてないけど・・・。」

俺「その間にお前は隠れる、いいな？」

神崎「・・・うん」

俺「じゃ・・・GO!」

掛け声と同時に教室から出る

出るまでは走ったんだがさすがにそれから歩きだ

## アナザー第2話（後書き）

なぜ軍隊が？ そう、これが第一の世界破壊の歯車のです  
厳密に言えば、集団催眠が歯車ですね

## アナザー第3話(前書き)

軍隊との接触

藤堂は軍隊の事気づいてなかったが・・・。

### アナザー第3話

廊下 2時間目開始2分後

????「お前は？」

俺「この学校の生徒ですよ。で、この状況はなんですか？」

部隊長「そうか、俺はこの部隊の隊長だ。この状況についてだが俺たちもさっぱりだ」

俺「そうですか・・・どうしてここに？」

部隊長「俺を見かけるなり逃げた不審人物が居たんでな、追いかけてきた」

俺「すいません、それは友達で・・・」

部隊長「友達？」

俺「はい、現在この学校内で起きてるのは、自分と友達だけでして」  
部隊長「ほう」

俺「友達が、親の心配をして一時帰宅し、戻ってくる所に武装したあなた方をみて・・・」

部隊長「なるほど、それはすまなかつたな。で、その友達は？」

俺「もし、話を通じなかつた時の為に隠れさせています」

部隊長「いい判断だ、では俺たちはこれで失礼しよう」

俺「お疲れ様です」

教室1-3 2時間目13分経過

俺「神崎 ?おわつたぞ？」

神崎「ほんとう!？」

俺「.....」

神崎「何？」

俺「教卓の下とかないわあ」

神崎「ロッカーは無理だったからここしかなかったんだよ!」

神崎「んで?どうだったの？」

俺「現状の説明って事でいいのか？」

神崎「うん」

俺「さつぱりだ、だがあの部隊はこちらの味方・・・今は、な」

神崎「あはは、いやだなあ」

俺「とりあえず、お前の報告を聞いてないな」

神崎「あ、ごめんw近辺も睡眠状態らしいよ？」

俺「ということは家族が？」

神崎「寝てたよwなんか妹も帰ってきてたけど」

俺「までよ・・・この地区だけ・・・だよな？」

神崎「そこまでの心配するの？キリがないよ？」

俺「そう・・・だな。刀の話に戻すか」

神崎「あの刀つてさ・・・どっかで見た事あるんだよね」

俺「なっ!?!?本当か!」

神崎「でも、なんかのカatalogだった気が・・・。」

俺「あー・・・。月間侍道か？」

神崎「あっ!そうそう!」

俺「はあ・・・。」

神崎「じゃあ関係・・・ない？」

俺「そうなるな」

現在3時間目が始まった。時間では、な

神崎「あれ？チャイムならないね？」

俺「考えたくないんだが・・・寝てるのは俺たちの方かもな」

神崎「確かにね、ありえなくないかも」

俺「っ!?!?伏せる!」

神崎「え？」

直後爆音

神崎「伏せた意味は？」

俺「ここを攻撃するということは友好関係ではない、そして顔を見られれば・・・殺される」

神崎「!?!?ちよ・・・ちよっとまって・・・うそ・・・でしょ?」

俺「声を抑えろ、あと落ち着け」

神崎「う、うん。でもなんで冷静なのさ」

俺「もうここは戦場だぞ？冷静を失ったものから死ぬってよく言うだろ？」

神崎「うっ。。。」

爆発地点はこの窓側から正面2階、多分体育館。

相手とは、こつちが見下ろす形になり、見られてないとは思っ  
しかしだ、あれ以来音がない

俺「偵察に。。。いくか？」

神崎「やめとこうよ。。。それこそやばいよ？」

俺「爆発の原因が知りたい」

神崎「え？あ、もしかして途中で寝たからなにか薬物おとしたとか  
！」

俺「ない、体育館だぞ？そこで実験なんて空気砲ぐらいだろう？」

「とりあえず、見てくる。お前はどすする？」

神崎「一人の方が楽しじゃない？ここからみてるよ」

俺「俺が下に行くまで窓から顔出すなよ？」

神崎「大丈夫！今腰抜けてるから！！」

俺「はあ。。。じゃあ」

神崎「うん！」

アナザー 第3話 (後書き)

次はアナザー 初戦闘です

## アナザー第4話

### 体育館

俺「こいつはひでえ・・・w」

屋根がボロボロ、半壊の状態

ただ、床に破損は見られないから屋根部分での爆発と思われる

俺「屋根が落ちて人がいるかわからん・・・。」

?「あれ?なんで人間がいんの?」

俺「え?」

?「まだ生き残りがいたんだ、えへへへ」

俺「誰だ?」

?「うーん・・・なんでもいいんじゃない?今から死ぬんだし」

俺「剣?・・・刃が光ってるが」

光つてるといつても紫色の発光

?「武器をみただけで、生き残れると思う?」

俺「正直お手上げだ、っと殺す前に聞きたいんだが」

?「なに?」

俺「屋根飛ばしたのは君?」

?「いやあくドジッて屋上からおとしちゃってさー」

俺「変なドジリ方だな・・・」

?「あ!ただ殺すのも面白くないし、ちょっとは抵抗してよ?」

俺「どうしろと?」

?「もう一個武器落ちてるんだ。拾えば抵抗できるよ?拾えるかは別として」

俺「ラストチャンス・・・か、ちなみに武器の形状は?」

?「そこまではw」

俺「じゃあ」

?「すたくと!!」

瓦礫の下か?いや落としたならここら辺に・・・。

？「動かないの？それとも？」

俺「……………」

屋根が爆発した……いや重いだけか？そして大きい

？「あれあれ？無視ですかあ、じゃあもういいんだね！」

ブンッ

俺「おうあ！？」

？「あはははっ！だっさ〜い」

俺「いきなりはひどいだろ」

？「声かけたよ〜？」

俺「え？……すまんじゃあもういいか」

？「おっ！では再開するよ〜」

しっかし、結構重そうだな……あんな剣どうやって持ち上げてんだ？

？「ん？なにになに〜見とれちゃってるの？」

俺「へ？あ、いやいやw」

？「むっ、じゃあ早く動いてよ〜！」

俺「もしかして、重い？」

？「もしかなくても重いよ！」

あ、手元になんか持つとこみたいなのが……。ってあつたしw  
さてつと、

俺「よいしょ、ふんぬっ！」

？「なにしてんの〜？」

俺「うつりゃああ！！」

これ……刀か？てか重い！これはさすがに屋根壊れるわ

で、崩れたのが衝撃を和らげて床が大丈夫だったと……。なるほどな

？「みつけちゃったかあ〜しかももてるなんて〜」

俺「結構重いけどなw」

？「じゃあ遠慮なくいくよ？」

俺「おう！待たせて悪かった！！」

おう……構えるだけで精一杯か、受け流せるかな？

？「いつくよー!!」

俺「え？ちよ、早いww」

ガキツ、動けねえ・・・ガードは間に合ったけど、ギリギリだ？「むゝ今のでやられればなあ」

俺「おあいにく・・・っ!？」

？「どうしたの・・・まさかもう限界？w」

なんでだ？なんでさっきの部隊が教室にいる？・・・畏か？

いや目が悪いから見間違いつて事もある

しかも天井の穴からみてるからなあさらだ

？「もーはやく構えなおしなよゝそんな姿じゃ次で死ぬよ」

俺「なあ・・・他にも人間が居るんだが、まずそっちから殺らねえか？」

？「何？びびってんの？」

俺「もうひとつ聞きたい、お前・・・軍の人間か？」

？「あ、ばれちゃった？そだよゝ、時間稼ぎしとけてさ」

俺「くっ」

？「今更助けようとしても無理だとおもうなゝ」

俺「やってやるさ！お前を倒してからな!!」

？「よく言えたね、そんな弱そうなカツコで」

俺「ただ、本気を出したくないだけだった。だが・・・もう殺すしかないからな」

？「バカじゃないかなゝ軍人と一般人。勝つのはこっちだよ？」

俺「甘く見すぎだな、」

カタログを見るだけあって刀についての扱いの知識、技術ある

それは神崎も同じだ。

まあチャンバラなわけだが・・・。

？「あゝあ、あと5分持つかな？」

俺「持たないだろうな」

相手の足に力がかかる

？「じゃあ、もういいや」

同時に相手が動き出す

とつさに半歩後ろに下がり構える

? 「ふんっ!」

カキツ さっきより衝撃が少ない、

? 「え? うそっ!」?

俺「言っただろ、甘く見すぎだと・・・なっ!」

ブンツ! 空振りに終わったがいい感じ!

? 「うゝ、ゆるさん! ぜったいにー!!」

バキツ!

床に剣がめり込む

俺「終わったな」

? 「うつりゃあああ!!!!!!」

俺「!」?

そのまま床をぶち抜く

そして下に・・・落ちたのか?

ともかく、教室に

俺「うおっ!」?

? 「逃がすか・・・くっ」

俺「何してんだよ・・・」

? 「落ちる気はなかったんだよぉ」

俺「はぁ・・・怪我ないか?」

? 「え?、うん」

俺「じゃあこいつはとりあえず借りとくわ」

? 「なんで!」?

俺「いや、一応」

? 「私のなのに」

俺「あー・・・あとで来てくれるか? 教室に」

? 「どの?」

俺「軍のミッションポイント」

? 「!!!??? な、なんで・・・それを?」

俺「教室見ればわかるわ！そんならい！！」

「あーあと、この剣爆破機能ついてるか？」

？「え？あ、あるよ？特定の場合でのみの発動だけど」

俺「ドジツたのは嘘・・・だな？」

？「鋭いねえ〜正解だよ」

途中誰かが戦っていたが気にしている暇はない

アナザー 第4話（後書き）

この敵も契約済みなのか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8974z/>

---

終わる世界に最後の約束を

2012年1月6日17時47分発行